



がんセンターたより

新年度のご挨拶

総長

古瀬 純司



病院長

酒井 リカ



当センターにとって、今年は5年間の中期計画初年度に当たります。病院の使命を「患者さんの視点に立った最良のがん診療を実践し、医療の発展と社会に貢献します」と掲げ、気持ちを新たにこれまで以上にがん専門病院としての役割を果たしたいと考えています。

最近の医療現場は、高齢化と価値観の多様化、労働者人口の減少、働き方改革による労働制限、経営困難など多くの問題を抱えています。その中であって、高度医療の提供や医療安全の確保などをしっかり進めながら、職員にとって働き甲斐のある病院であることが求められています。

これらの課題に対応していくためには、一般の皆様のご理解と多くの医療機関や行政などさまざまなネットワークを生かした緊密な連携が欠かせません。今年度も引き続きみなさまのご協力をご理解をいただければ幸いです。

令和7年度も早くも第2四半期が迎えようとしております。平素より、当センターに温かいご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

当センターは本年度より、「患者さんの視点に立った最良のがん診療を実践し、医療の発展と社会に貢献する」ことを新たなミッションに掲げ、全職員が一丸となって取り組んでおります。

患者さんの背景や価値観が多様化する中、「最良のがん診療」は一律ではありません。私たちは、多職種チームによる連携のもと、安全で質の高い医療を推進し、一人一人の患者さんに最適ながん医療をお届けできるよう努めております。

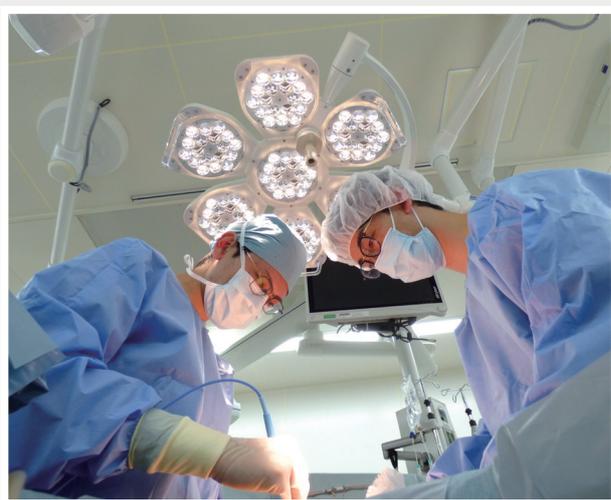
今後も、地域の医療機関の皆様との連携を大切に、診断前から治療後まで、患者さんが安心して医療を受けられる体制の整備に力を注いでまいります。変わらぬご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。



消化器腫瘍センター開設とご挨拶

✓ 消化器腫瘍センターとは？

消化器悪性腫瘍に対する内科的治療、外科的治療、放射線治療（重粒子線治療など）やゲノム医療などの各治療を統合した新たな外来診療システムであり、より幅広い消化器疾患・病態を受け入れる総合診療センターとなっています。主に消化器内科、消化器外科の医師が各自の専門領域を超えて消化器系悪性疾患の初診を毎日受け入れる体制を取り、適切な診療科への迅速な外来診察へつなげることを目的としています。



✓ 開設経緯

消化器腫瘍センターは、診断のついていない消化器がん疑いから内視鏡治療、外科手術、薬物療法、重粒子線治療からゲノム医療まで様々な診療を行っており、ご紹介いただく先生方や患者さんもそれぞれいろいろな治療を希望されていることと存じます。治療の目的が明白な場合は専門診療科へのご紹介で問題ないと思われませんが、時に治療方針が立てづらい場合や手術とゲノム医療など集学的治療を希望される場合に、診療情報提供書の宛先をクリニックの先生方が判断しなければならないご負担を強いてきた現状があります。このような状況を解決していくために、宛先に迷う患者さんを消化器腫瘍センター宛てにご紹介いただくことで、適切な診療科へ受診できるように初診受け入れ体制を改善することを目的に設置しました。

✓ 地域連携について

消化器悪性疾患が疑われたときに『とりあえず神奈川県立がんセンターの消化器腫瘍センターに紹介しておこう』とお考えいただき紹介してください。受診していただいた患者さんは、消化器腫瘍センターとして責任を持って適切な診療科で迅速に診察できるようにしてまいります。治療後は、紹介元の先生方のご負担のない範囲内の2人主治医制を遂行し、一方通行ではない診療連携体制を構築していきます。

✓ 受診について

従来の消化器内科、消化器外科宛ての紹介及び特定の医師への紹介も、従来通り継続してまいります。内科、外科、放射線科など紹介の宛先に迷う場合は、消化器腫瘍センター宛てにご紹介いただければ、適切な診療科へ受診できるように手配してまいります。消化器腫瘍センターとしての受診は毎日受け入れています。

✓ 今後の展望について

がん患者さんのご紹介の受け入れや加療後のフォローアップの依頼をしていくうえで、クリニック及び病院の先生方の要望をお聞きすることはとても重要です。今後は紹介していただける先生方のお声をお聴きするシステムを構築し、消化器腫瘍センターとして皆様と意見交換しながら連携を深めてまいります。

／———／ センター長としてのご挨拶・意気込み ／———／



消化器腫瘍センター長
塩澤 学

消化器腫瘍センターは、様々な消化器腫瘍疾患を診療科を横断して受け入れることで、ご紹介いただくクリニックや病院の先生方の紹介プロセスに関わるご負担の軽減を目指しています。外来窓口の門戸を開くだけでなく、ご紹介いただく先生方のニーズをお聞きして、フィードバックしながら外来初診システムを改善いたしました。また、初診受入れの問題だけでなく、受診以降の様々な問題点をご指摘いただくことで、さらなる改善を進めてまいります。

就任のご挨拶

事務局長

石井 幸介

2025年4月から、事務局長として着任しました、石井幸介です。

これまで、神奈川県職員として様々な業務に携わってきましたが、久しぶりに病院業務に携わることとなりました。私が病院業務に携わらせていただいたのは、約20年前、このセンターが道路の反対側にあった頃ですが、当時も病院業務はたいへん忙しく、深夜遅くまで駆けずり回っていた若かりし頃の自分が懐かしく思い出されます。

その後、様々なセクションを経験し、コロナ禍の際には神奈川県の医療危機対策本部室でコロナの対応にもあたりました。その時はすべてが手探りのような感じでしたが、県民の皆様に必要な医療をできる限り迅速に届けるとの思いで業務に当たってまいりました。

そして、これからは、がんセンターの職員として、当センターが「患者さんから信頼され、職員が誇りを持てる病院」となるように、尽力してまいりたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。



副院長兼医療安全室長

齋藤 春洋

2025年4月から、医療安全推進室長になりました齋藤春洋です。

「安全な医療の提供」は、今や病院の最重要の課題であります。

さらに、私たちの所属する神奈川県立病院機構は、機構全体で医療安全を推進するために昨年から「アクションプラン42」を掲げて、

日本一安全な病院群を目指しております。このような時期に、医療

安全推進室長に任命され、責任の大きさを痛感するとともに、大きなやりがいを感じております。幸い、

医療安全推進活動の先輩であります看護師の医療安全管理者や、医療安全専従薬剤師と共にチーム

として活動して行くことができるのは心強い限りであります。医療安全活動は、個人の責任の追及

が目的ではありません。「安全な医療を提供するための対策を講じる」ことが使命です。医師や看護

師だけでなく全職員のみなさんと共に協力して、安全な医療環境を整えて行く所存です。どうぞよろし

くお願いいたします。



副院長兼看護局長

長岡 美穂

2025年4月から、副院長兼看護局長として着任いたしました長岡美穂でございます。がんセンターの看護局は「がん看護を実践するもの」として、「がんと共に今を生きる患者に寄り添い、その人らしさを大切にした最良の看護を提供します」という使命を持ち、日々看護を行っています。がんという疾患は治療プロセスが長く、それぞれの段階で必要となる治療やケアが異なります。患者さんが自身の人生を生きられるよう可能性を引き出すのが私たち看護師の役割です。看護職員一人一人がこのことを理解し、病院組織の一員として多職種と連携し、患者さん・ご家族にとって最良の看護を提供できるよう努力し続けていきます。



副看護局長

藤内 陽子

2025年4月から、副看護局長を拝命いたしました藤内陽子と申します。当センターには、約9年ぶりに戻ってまいりました。この間、教育機関および行政機関において、看護職の現任教育、人材確保、地域医療を支える体制づくりに携わってまいりました。がん医療は日々進化し、患者さんやご家族のニーズも多様化しています。現場では、患者さんにご家族の心に寄り添いながら、科学的根拠に基づいた質の高い看護を提供することが求められています。私は、これまでの経験を活かし、看護職の育成と働きやすい環境づくり、多職種との連携によるチーム医療の推進に尽力してまいります。皆様のご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



診療科部長

就任のご挨拶



消化器外科（胃食道）部長

山田 貴允

2025年4月より、消化器外科（胃・食道）の部長を拝命いたしました山田^{たかのぶ}貴允と申します。2002年に横浜市立大学医学部を卒業後、同大学外科治療学教室に入局し、胃癌・食道癌を中心とした外科治療に従事してまいりました。手術に加え、化学療法・化学放射線療法も含めた包括的な診療に取り組んでいます。高齢化や多様な医療ニーズに対応すべく、標準治療に加え、鏡視下手術・ロボット支援手術・臨床試験など先進的な医療にも力を入れております。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

2025年4月より、呼吸器内科部長を拝命いたしました村上修司と申します。当科は肺がんを中心とした悪性疾患の診療を専門とし、薬物療法をはじめとする集学的治療に力を入れてまいりました。近年はバイオマーカー検査の充実や治験の活用を通じ、個別化医療の提供体制も強化しております。今後も地域の医療機関の皆様と連携し、患者さんにとって最適な医療を届けられるよう努めてまいります。引き続きご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



呼吸器内科部長

村上 修司



頭頸部外科部長

松本 崇

2025年4月より、頭頸部外科部長を拝命いたしました松本崇と申します。頭頸部は、呼吸・発声・咀嚼・嚥下・五感など、重要な機能が集中する領域です。当科では根治性を重視しながら、機能障害やQOL低下を最小限に抑える治療を目指しています。新体制では、進行がんの切除から再建までを一貫して頭頸部外科医が対応できる体制を整えました。重粒子線を含む放射線治療や薬物療法も含め、個々の患者さんに最適な集学的治療を提供しています。頭頸部腫瘍が疑われる際は、ぜひ当科へご紹介ください。

2025年4月1日付でICU科部長を拝命しました古賀^{こがもとかず}資和と申します。幼少期を希望ヶ丘で過ごした私にとって、二俣川は身近な都会でした。2021年当センターに麻酔科医として着任し、前任者を補佐しながら麻酔科と集中治療にかかわってきました。当センターのHCUは、医師、看護師、薬剤師、臨床工学技士、セラピスト、管理栄養士など様々な職員が患者さんのため一つの目標に向かって診療しております。どうぞよろしくお願いいたします。



ICU科部長

古賀 資和



病理診断科部長

大久保 陽一郎

2025年4月より、病理診断科部長を拝命いたしました大久保陽一郎と申します。当科では迅速かつ正確な病理診断を提供すべく、関係診療科と連携し、標本作製や診断体制の質向上に努めております。私は甲状腺・泌尿器・婦人科領域を専門とし、がんゲノム医療や個別化医療に関する研究にも注力しています。今後はデジタルパソロジーの導入や人材育成にも力を入れ、より高精度・効率的な診療体制の構築を目指してまいります。何卒よろしくお願い申し上げます。

重粒子線治療市民公開講座 「切らない選択肢 最先端の重粒子線がん治療を知る」

重粒子線治療は、X線や陽子線治療と比べ、がん細胞を殺傷する能力が高く、放射治療が効きにくかった肉腫など難治性腫瘍も治療の適用範囲となっています。「重粒子線」は、狙った深さ以上に突き抜けないという特性を持つので、深部にあるがん細胞であっても集中的にアプローチすることができるため、正常な細胞を傷つけにくく、治療回数もX線や陽子線治療よりも少ないというメリットがあります。重粒子線治療施設は、国内に7箇所しかありませんが、中でもがん専門病院に設置しているものとしては当センターの施設が唯一です。この最先端の放射線治療を広く知っていただくため、テーマを重粒子線治療に特化した市民公開講座を開催しています。

2025年3月20日

横浜市北部、川崎エリア

第1回

当センター最寄り駅である二俣川駅を通る相鉄線と東急東横線が直通になり、横浜市北部地域や川崎地区からの利便性が向上したことを受けて、本年3月に武蔵小杉駅そばの川崎市コンベンションホールで開催しました。当日は、帝京大学医学部附属溝口病院及び日本医科大学武蔵小杉病院の先生方に御講演をいただき、市民の方168人の御参加がありました。



動画はこちらから



2025年9月23日

相模原・町田エリア

第2回

第1回と同様に都県境になる相模原市や町田市の住民の方を対象に、当センターのイベントとしては初めて県外施設である町田市文化交流センターでの開催を予定しています。今回は、国立相模原病院及び町田市民病院の先生方に御講演をいただく予定となっています。一般の市民の方を対象とした講演になりますが、御関心のある医療関係者の皆様の御参加もお待ちしていますので、ぜひ、下記問い合わせ先に御連絡をください。

問合せ先

総務企画課 TEL 045-520-2222(代) FAX 045-520-2202

治験
ニュース



HPはこちらから

新規治療開発支援センターより

新規治療開発支援センターでは、2025年6月現在で、呼吸器内科83件、乳腺外科41件、消化器内科（肝胆膵）42件をはじめとして、14の診療科で233件の治験を実施しております。また、当センターのホームページ右上のメニューから「治験・臨床研究」をクリックいただくことで、治験一覧を掲載しているページに直接アクセスすることが可能となりました。診療科別に掲載しておりますので、ぜひご覧ください。また、治験の参加に関するご相談については、「がん相談支援センター」で承りますので、ご利用いただけますと幸いです。新規治療の開発・発展のため、引き続き先生方のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

セミナー・勉強会等のお知らせ

▶ 臨床腫瘍セミナー

形式 WEB開催・参加無料 **時間** 木曜日 17:30～18:30 **対象** 医療従事者 **定員** 100名

開催スケジュール

2025年

6月5日 「大腸癌」
 6月12日 「腎 癌」
 6月19日 「甲状腺腫瘍」
 7月 3日 「放射線治療」
 7月10日 「放射線診断とIVR」
 7月31日 「遺伝診療」
 8月21日 「肝臓癌」
 8月28日 「乳 癌」
 9月 4日 「胃・食道癌」
 9月18日 「肉 腫」
 10月 2日 「重粒子線治療」
 11月13日 「頭頸部腫瘍」
 12月11日 「消化管がんに対する内視鏡治療」

2026年

1月15日 「肺 癌」
 1月29日 「白血病」
 2月 5日 「東洋医学」
 2月12日 「悪性リンパ腫」
 2月19日 「がんゲノム病理学」
 3月 5日 「婦人科腫瘍」

● 事前登録はこちら

右の2次元コードより、事前登録をお願い申し上げます。



\POINT1/

現役医師による解説

実際に当センターの外來診療や手術を担当する医師が講師を務めます！

\POINT2/

ご自宅や診療後でも参加可

WEB開催なので、ご自宅や診療後のクリニックなど、場所を選ばずご参加いただけます！

\POINT3/

症例 & 研究データ

ここでしか視られない貴重な臨床研究データや症例も！

▶ 第11回 先端医療セミナー ～胆道がん～

日時 2025年9月8日(月) 18:30～19:30

形式 オンライン開催 (ZOOM webinar)

● PROGRAM

総合司会 塩澤 学(消化器腫瘍センター センター長/消化器外科(大腸) 部長)

18:30～ Session1

『胆道癌薬物療法の現状と重粒子線治療』

演者 上野 誠(消化器腫瘍センター 副センター長/消化器内科(肝胆脾) 部長)

19:00～ Session2

『胆道癌の集学的治療における外科治療』

演者 山本 直人(消化器外科(肝胆脾) 部長)

● 事前登録はこちら

リンクまたは2次元コードより、事前登録をお願い申し上げます。開催前日までに、ご登録頂いたメールアドレス宛にZOOM ID/PWを送付いたします。

事前登録リンク：
<https://forms.office.com/r/CT1Xqk34gb>



▶ 第12回 先端医療セミナー ～食道がん～

日時 2025年10月14日(火) 18:30～19:30

形式 オンライン開催 (ZOOM webinar)

● PROGRAM

総合司会 大島 貴(副院長)

18:30～ Session1

『食道癌における化学療法、化学放射線治療の現状』

演者 古田 光寛(消化器内科(消化管) 医長)

18:50～ Session2

『食道癌に対する内視鏡切除の現状』

演者 滝沢 耕平(消化器内科(内視鏡) 部長)

19:00～ Session3

『食道癌における手術治療と重粒子線治療』

演者 尾形 高士(消化器外科(胃食道) 部長)

事前登録リンク：
<https://forms.office.com/r/ZdFHyDPAPS>



編集後記

梅雨があつという間に過ぎ、猛暑が到来しておりますが、皆様お変わりなくお過ごしでしょうか。本号では、消化器腫瘍センターの新設による診療体制の刷新、新任部長のご挨拶、重粒子線治療・治験に関する情報をお届けしました。当センターは「患者さんの視点に立った最良のがん診療」を使命に、診断から治療、フォローアップまで一貫した医療体制を構築しています。今後も地域医療との連携を深め、がん患者さんに寄り添う医療を目指します。

副院長兼地域連携室長 岸田 健